世界の灯台どうだい？ 10

不動まゆう

30秒ごとに鳴る霧鐘の灯台は人命だけではなく生態系も守る

ペンモン岬灯台（イギリス）

ここはイギリス、ウェールズ地方のペンモン岬。灯台を目指し歩いていると、鐘の音が聞こえてきた。近くに教会でもあるのだろうか。カーンッ…しばらくするとまた聞こえる。

灯台を目前にしてようやく音の主が灯台であるとわかった。小さな霧鐘（むしょう）＝**写真・円内**＝が取り付けられているのだ。その鐘はゼンマイ仕掛けで30秒ごとに自動的に打たれる。

日本で初めて霧鐘が使われるようになったのは1877（明治10）年。青森県の尻屋埼（しりやざき）灯台に取り付けられ、霧が発生すると、光の代わりに鐘の音で灯台の位置を知らせた。尻屋埼灯台に取り付けられた鐘は重く、発音時の振動が塔に負担をかけると考え、２年後に取り外された。現在は犬吠埼（いぬぼうざき）灯台の敷地に野外展示してある。

ペンモン岬灯台（ウェールズ語で黒い岬を意味する「Trwyn Du」灯台とも呼ばれる）の鐘は小型で塔への負担が心配ないためか、霧が出ていなくても常に鳴らされていた。時折、打ち損じてコンッと余韻の短い音が鳴るのでクスっと笑ってしまう。

灯台はメナイ海峡の北側の岩礁に立っている。満潮時に危険な浅瀬が隠されるため、灯台にはNO PASSAGE LANDWARDと書かれ、灯台よりも陸側に水路がないことを示す。対岸にはパフィン島という、その名の通り多くのパフィン（海鳥）が生息している島がある。灯台が建てられる前、ここで海難事故が発生し、多くの人命が失われるだけでなく、船からドブネズミが島に上陸し、パフィンにも大きな被害をもたらした。悲劇を繰り返さないため、灯台は人命だけでなく生態系も守っている。

（つづく）